

社会福祉法人いきいき福祉会
2022年度 いきいき福祉会 法人事業計画

はじめに

2022年度はコロナ禍での事業活動3年目となります。長きに渡る感染症とのたたかいとなっています。現在、感染を騒がしているオミクロン株からステルスオミクロン株への感染拡大が示唆され、ウイルスは更なる進化を遂げていく可能性が十分想定され、出口の見えない道の中で介護事業を継続せねばなりません。

このような中で2022年度法人事業計画策定をどのように捉え実践していくか。非常に悩み・苦しむところではありますが、こうした時にこそ地域と地域の人々へ寄り添う法人・事業所の本質的構えが問われます。私たちは誰のための・何のための事業体であるのか。ここをしっかりと据え、寄り添う介護実践を目指していきたいと思えます。

【法人基本方針】

私たちは、人権としての介護・福祉をめざし、社会福祉法人として、誰もが人間らしく安心して住み続けられる（くらしのなかに介護がある）まちづくりを連携する全ての方々と共にすすめていきます。

【2021年度法人事業計画の方針とその実践について】

1. 法人事業計画の方針と実践について

① 新型コロナウイルス感染症の継続

各事業所は災害ならびに感染症発生における事業継続計画（BCP）を作成しました。東京民医連介護事業所を対象とする学習会でその内容を発表し、意識的に取り組んできました。

② 2022年度中に法人長期計画作成を完成する

法人長期計画作成の目的を役職者会議で議論し、作成に向けての土台を作ってきました。

③ 「フードバンク八王子えがお」との連携・フードドライブの活性化

フードドライブへの意識的な取り組みをはじめ、2021年9月からフードパントリーを開始しました。2022年2月末で 件 件の対応となります。この取り組みを三多摩ブロック学術運動交流集会へ報告し、民医連ならではの取り組みとして賞を頂く事も出来ました。そもそも社会に潜む問題がコロナ禍により「より鮮明」となった背景等、社会問題の学習を深めていく必要があります。

④ 介護安全委員会・教育委員会の継続開催。法人事例検討会の開催

二つの委員会は継続して定例会議を開催し、介護安全委員会は事業所相互点検を実施しました。過去の点検から連続する流れと対応になっています。また教育委員会では「ダイアログでの議論」を重視し、経験を持ち寄る学び合いも行ってきました。3回目となる法人事例検討会を12月開催し、連携法人からの参加もあり、ストーリーテリングでの発表に一味違う学びが深まりました。

⑤ ICT化導入のケアプランセンターいきいき・ヘルパーステーションいきいきの業務改善

導入したソフトはユーザー側が如何に使いこなすかが、極めて重要です。導入開始から1年経過した事で見えてきた点等を、業務改善に結びつけていきます。

⑥ HPの充実

年度半ばにHP全体の見直し・写真の入れ替え等の作業が完了しました。

⑦ HP上での寄付金の呼びかけ

理事会でも確認しHPでの寄付金の呼びかけを開始しました。1件・2回寄付金がありました。

- ⑧ 介護報酬改定への取り組み：BCP、高齢者虐待、初任者研修への支援、ハラスメント対策、高齢者虐待・ハラスメントについては介護安全委員会にて取り組んできました。また初任者研修への支援もデイにて1件ありました。
- ⑨ こまくさの家・長房における、家賃・食費の見直し
2021年12月から家賃・食費の見直し改定を事前に利用者ご家族に打診しながら実施となりました。
- ⑩ 収益比3%の利益確保
コロナ禍によるデイサービス利用の変化・グループホームにおける入退去の変化が経営に影響を及ぼしています。在宅関連では地域包括からの新規利用者相談等により、ケアプランセンターやヘルパーステーションでは新規利用者は途切れる事はありません。2021年度はヘルパーステーションと報酬改定の影響を受けたケアプランセンターの2事業所が法人経営を牽引していきました。しかし役職者全体は「予算死守」を最大目標にあらゆる努力を行ってきました。クラスター発生となったこまくさの家・長房も、大変厳しい職員体制の中でも踏ん張りきった事で何とか事業を継続する事ができました。事業所・本部の全てが一丸となって支援し守ってきた事も確かです。目標が絵に描いた餅にならないよう最善を尽くしてきた取り組みは非常に大きかったと振り返ります。

2. 管理運営

- ・毎月1回全事業所管理者会議（主任を含む役職者会議もあり）
- ・介護安全委員会：毎月第2水曜日
- ・教育委員会：毎月第2木曜日

3. 八王子市への事故報告

- ・別紙にて

4. 原水爆禁止世界大会：3名 ZOOMにて参加

5. その他：帝京平成大学：社会福祉学科2年生

東京純心大学：看護学生2年生 ZOOMにてインタビュー
運営推進会議

東京民医連介護事業法令遵守交流集会：全事業所管理者

東京民医連介護事業所経営検討会議：全事業所管理者

全日本民医連介護福祉責任者会議：山口、斉藤

認知症実践者研修：石川 茂木

【2022年度法人事業計画について】

① 新型コロナウイルス感染症対策の継続

グループホームこまくさの家・長房で経験したクラスター発生を教訓にし、更なるBCP作成を行います。

② 法人長期計画を作成します。(2022年度は法人中期計画3年目の年度です)

役職者全体での議論を大切にします。こまくさの家・長房における施設設備関連の機器更新や2025年6月契約満了のこまくさの家の今後も含め、重要な議論となります。また法人全体が管理者の世代交代の時期に突入し、そこに役職者育成や職員確保の課題も重なります。大変厳しい議論になる事が想定されますが、全体像を外すことなく議論を行っていきます。

- ③ 対象となっている全ての事業所で LIFE 加算の取得を目指します。
 デイサービスかっちゃんの家での加算を目指し、利用者の全体像の更なる把握と介護の質の向上に向け計画的に進めていきます。
- ④ ICT 活用を既に導入したケアプランセンター・ヘルパーステーションでは業務の効率化を追求します。
 また 2021 年 1 1 月電子記録媒体へ切り替えた 2 つのグループホームは業務手順書の見直しを含め、更に整備を進めていきます。
- ⑤ 2022 年度更に法人寄付金を呼びかけます。
 あらゆる連携先・共同組織・地域の方々にも発信していけるような取り組みを検討・具体化していきます。
- ⑥ 2022 年下期（10 月）から二つの GH における維持費を値上げします。（10,000 円→15,000 円）
 「生活受給者の方も安心して入居できるグループホーム」をモットーにしながら、料金改定を行ってききましたが、それでも高齢者単身の生保受給額よりも低い設定です。しかし最近では GH 入退去の回転が著しく変化しており、それによる不安定さが経営に直撃しています。今一度、八王子市高齢者単身者における生活扶助額を鑑み、2022 年度下期 10 月から維持費 10,000 円を 15,000 円（5,000 円）へと引き上げを具体化し経営改善を図っていきます。なお家賃等の改定を 2021 年 12 月実施した経過もある為、値上げ時期については 2022 年 10 月（下期）から維持費を増額致します。今後当面は値上げを行わず経過をみていきます。
- ⑦ 地域に根差した事業活動の更なる具体化
 ここ 2 年間「コロナ禍」の中「感染対策＝人との接触を避ける」事が日常となる中で、地域とのつながりに距離感が生じています。致し方がない事ではありますが、感染対策を行いながら屋外での地域接点の活動を模索していきます。また 2021 年度フードバンク八王子えがおと強化された連携を軸に、フードドライブやフードパントリーを通し地域支援に貢献していきます。

【各事業所における 2022 年度事業活動における目標】

- ① こまくさの家（石川）
 今後も入居者の心身の状態悪化はおおいに考えられる。その中でどのように満床維持に努めていくのか。また退去時に空室を長く作らないため、新入居者のスムーズな入居。それに伴う待機者の確保は必須。
- ② こまくさの家・長房
 地域、医療、介護の連携を深め情報収集し知識を得る事でお互い意見交換をしながら地域の一員としてより良い環境作りに参加していく。
- ③ デイサービスセンターかっちゃんの家
 コロナ禍による影響も多々あるが、きめ細かな営業を行い『断らない介護』の継続を目指す。
- ④ ケアプランセンターいきいき
 感染症や災害の際の BCP や権利擁護、8050 問題や 65 歳問題等々、ケアマネに求められている様々な社会的ニーズを敏感にキャッチしながら、スタッフ全員が共通の意識をもって話し合い、対応していく。
- ⑤ ヘルパーステーションいきいき
 コロナの感染防止指針を軸にしながら、安心、安全を念頭に積極的に業務の継続を行えた。一方ではヘルパーの高齢化に伴う自然減が既に発生しており、極めて解決困難な課題を抱えている。